

令和5年度
島田市の男女共同参画に関する
市民意識調査報告書

令和5年12月
島田市市民協働課

目 次

1. 調査概要	
2. 回答者の属性	
3. 調査結果	
問1 女性の社会進出を後押しする動きについて	04
問2 男女共同参画の意識・慣行について	04
問3 女性が職業を持つことについて	06
問4 生活の中での優先度について	07
問5 男女平等について	08
問6 男女共同参画を進めるため、市に希望する取り組みについて	11
問7 SOGI（性的指向と性自認）について	12
問8 LGBT（性的マイノリティ）について	12
問9 多様な性のあり方への理解促進などの取組について	13

1. 調査の概要

本調査は、「第4次島田市男女共同参画行動計画」(2024～2028)を策定する際の基礎資料とするため、「令和5年度島田市総合計画」市民意識調査に男女共同参画・多様な性のあり方に係る9つの設問を設けて実施しました。

■調査方法

調査対象：島田市在住の18歳以上の市民2,500人

調査方法：郵送調査法及びWEB調査による

抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出

実施期間：令和5年6月1日から令和5年6月30日まで

■回収結果

発送数	有効回収数	有効回収率
2,500票	1,153票（郵送回収897票+WEB回収256票）	46.1%

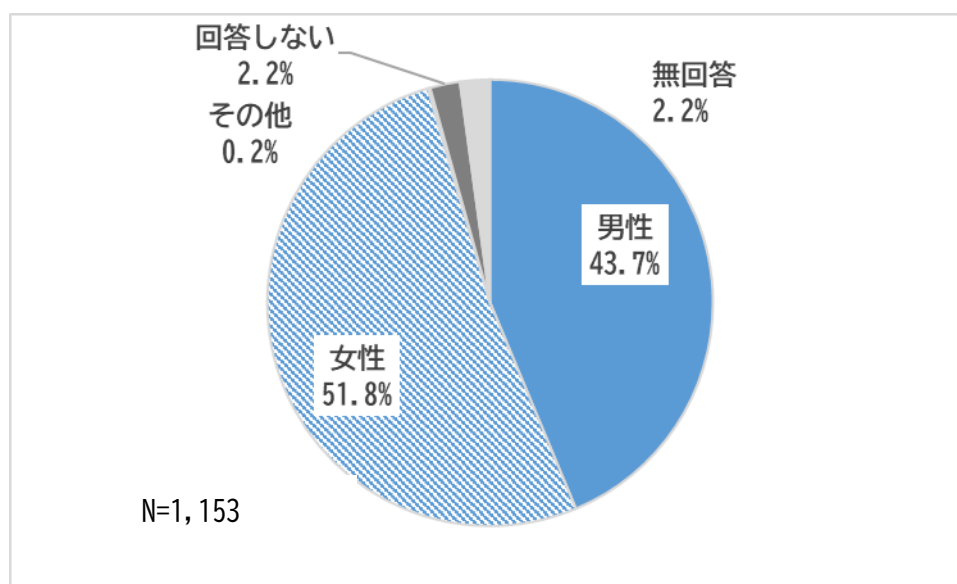
※有効回収数：集計に利用した票数

■報告書の見方

- ①調査数は「N」と表示しており、回答比率はこれを100%として算出しています。
- ②回答比率はすべて小数点第1位までの百分比で表示しています。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分比の合計が100%にならないことがあります。
- ③複数回答の許される設問においては、回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④選択肢の文章が長い場合、グラフ上では省略して表記していることがあります。

2. 回答者の属性

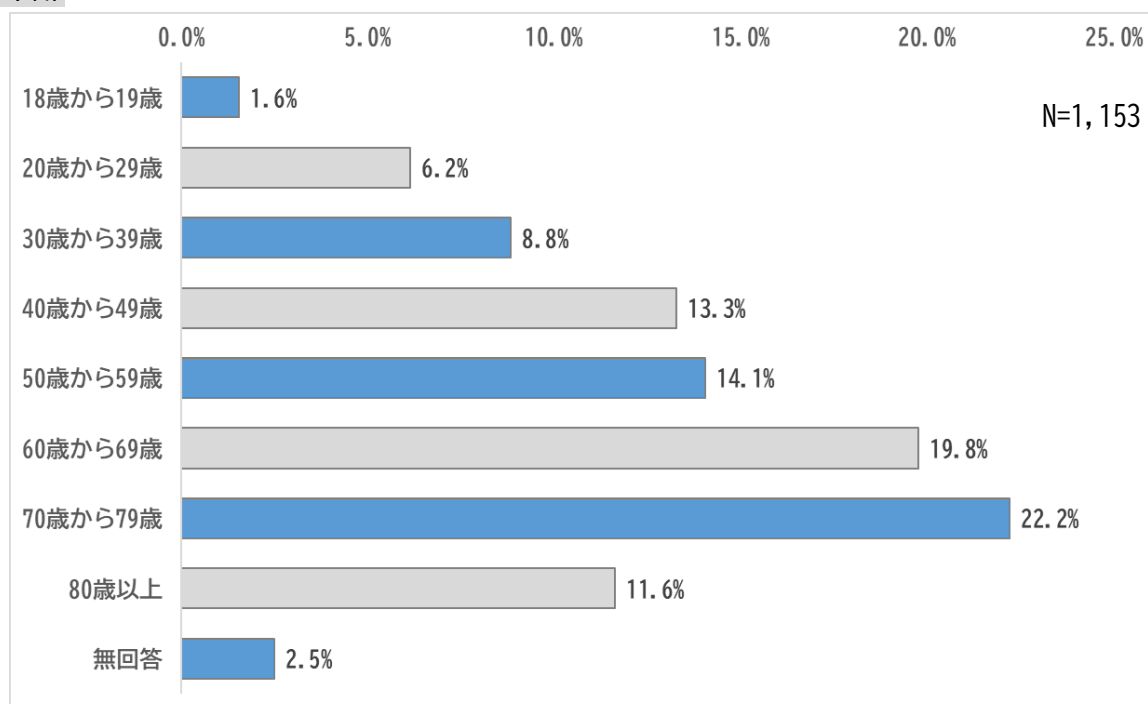
性別



性別は、「男性」が43.7%、「女性」が51.8%となっています。

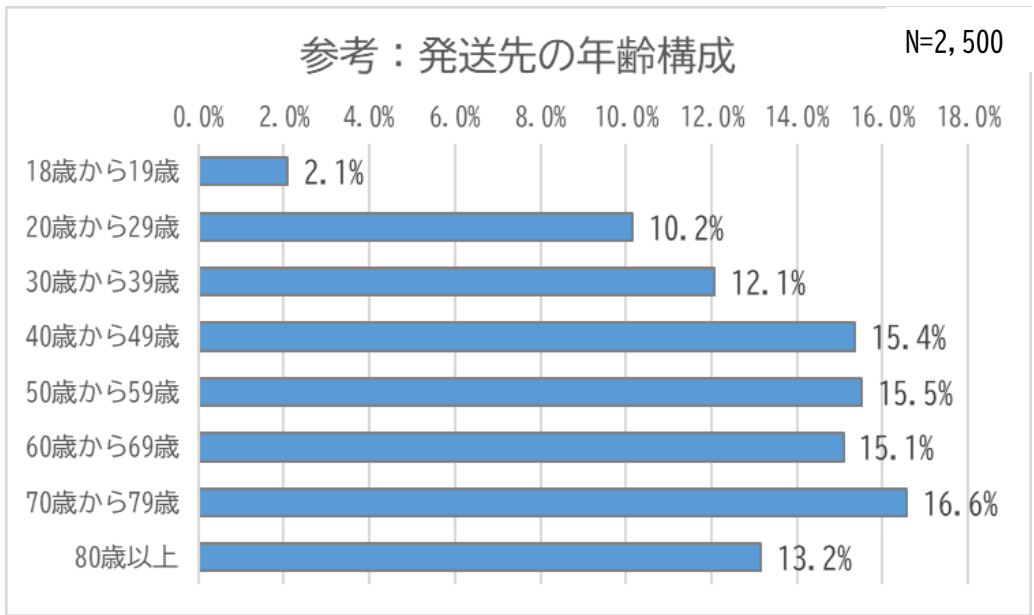
発送者全体の男女比が5:5に対して、回答者数では若干女性の回答率が高くなっています。

年齢

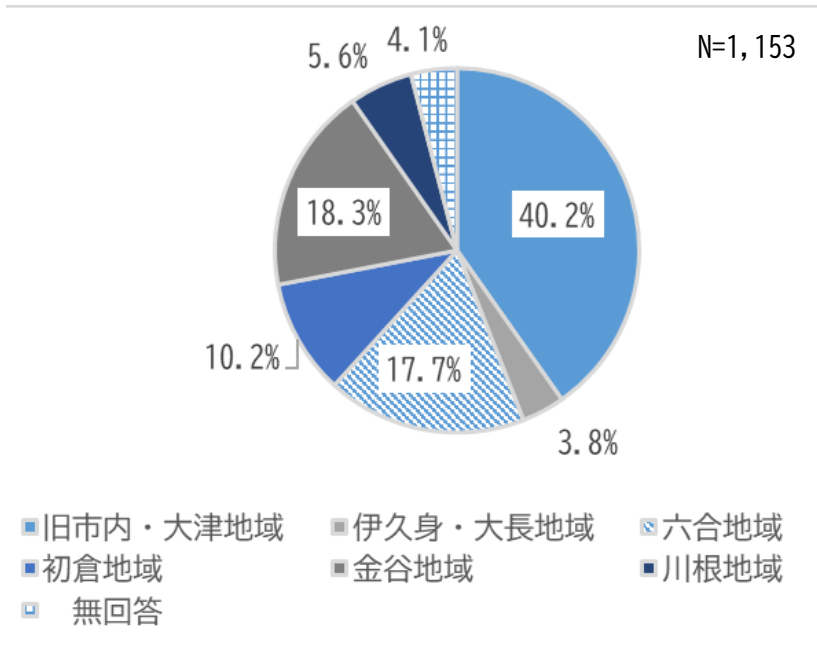


年齢は、「70～79歳」が最も高く22.2%、次いで「60～69歳」が19.8%、「50～59歳」が14.1%となっています。

発送者全体の内訳では「60～69歳」は15.1%、「70～79歳」は16.6%、「50～59歳」は15.5%を占めているのに対し、60歳以上の人の回答率が高い結果となっています。



地区



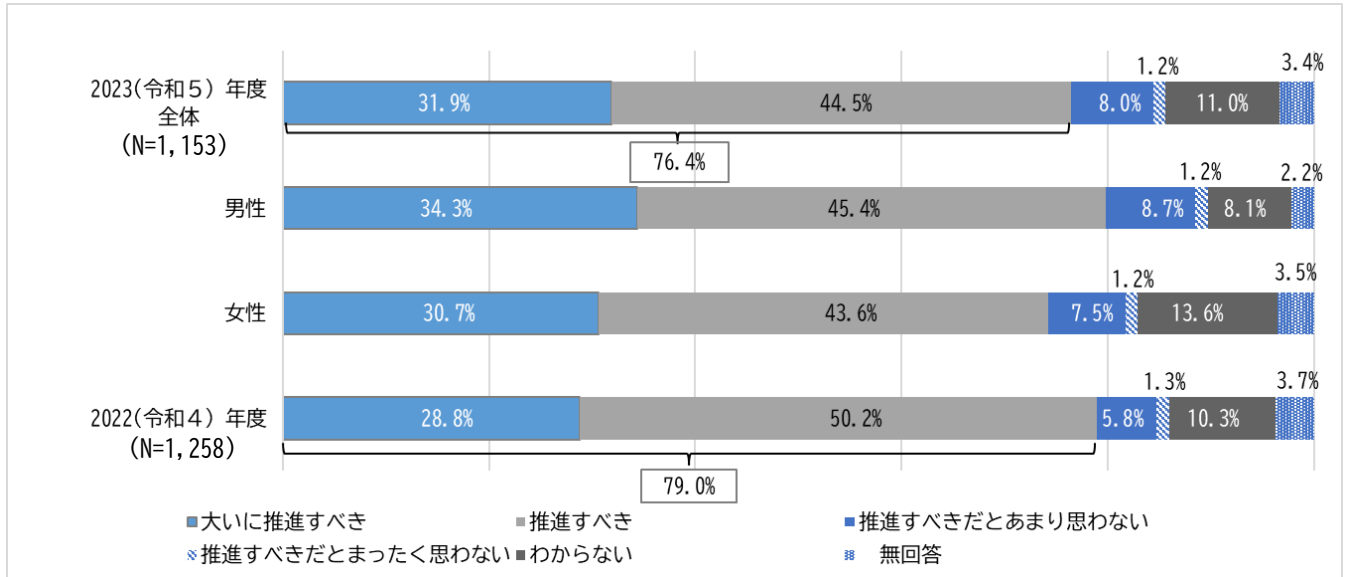
居住地区は、「旧島田市内・大津地区」が最も高く40.2%、次いで「金谷地区」が18.3%、「六合地区」が17.7%となっています。

発送者全体の内訳では「旧島田市内」が42.3%、「金谷地区」が18.8%、「六合地区」が16.1%となっており、発送者の割合と回答率がほぼ同じ結果となっています。

3. 調査結果

問1 女性の社会進出を後押しする動きについて

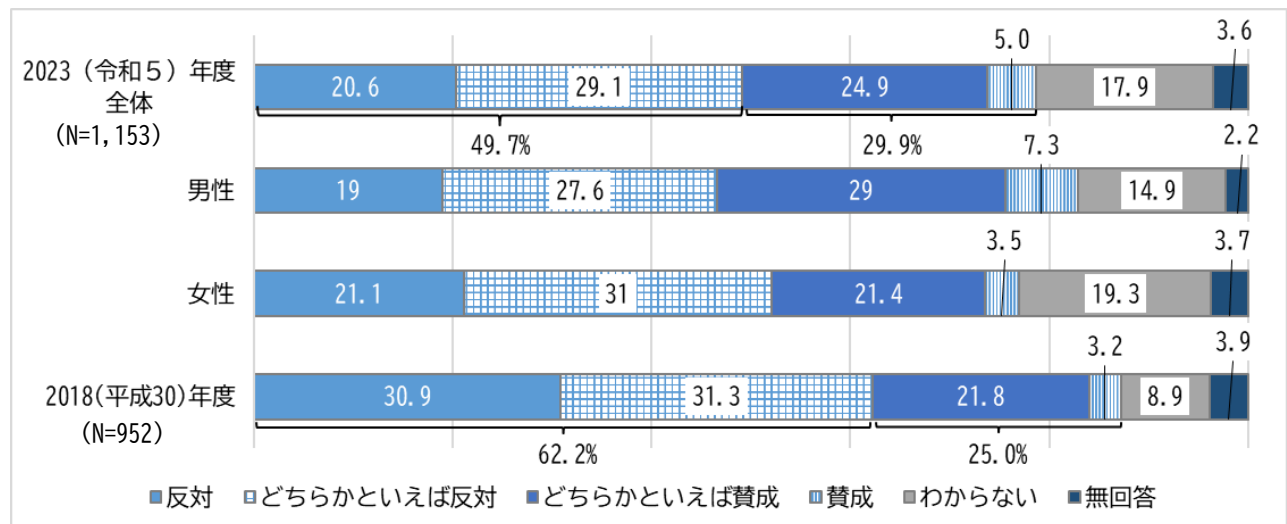
あなたは、女性の社会進出を後押しする動きが広がってきていることについてどのように思いますか。



女性の社会進出について、「大いに推進すべき」と「推進すべき」の回答を合わせた『推進すべき』の割合は76.4%となっています。
 経年比較をみると、「大いに推進すべき」は前回調査より3.1ポイント増加しましたが、「推進すべき」は5.7ポイント減少しました。また、男女の比較では大きな差はありませんでした。

問2 男女共同参画の意識・慣行について

(1) 「性別役割分担」という考え方について

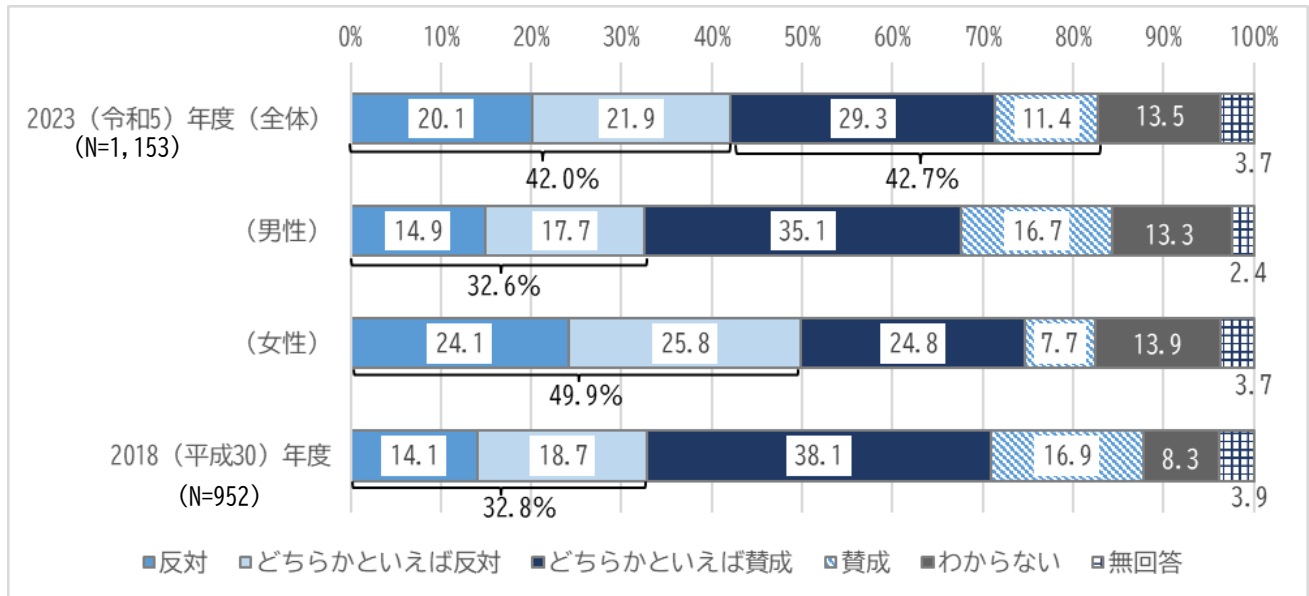


「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「反対」と「どちらかといえば反対」の回答を合わせた『反対』の割合が49.7%となっています。「賛成」と「どちらかといえば賛成」の回答を合わせた『賛成』の割合は29.9%となっています。

『反対』の割合は、平成30年度30.9%に比べ、10.3ポイント減っています。

『反対』と答えた人の性別は、男性46.6%、女性52.1%で、女性の割合が5.5ポイント高くなっています。

(2) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい



「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい」という考え方については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の回答を合わせた『賛成』の割合は40.7%となっています。

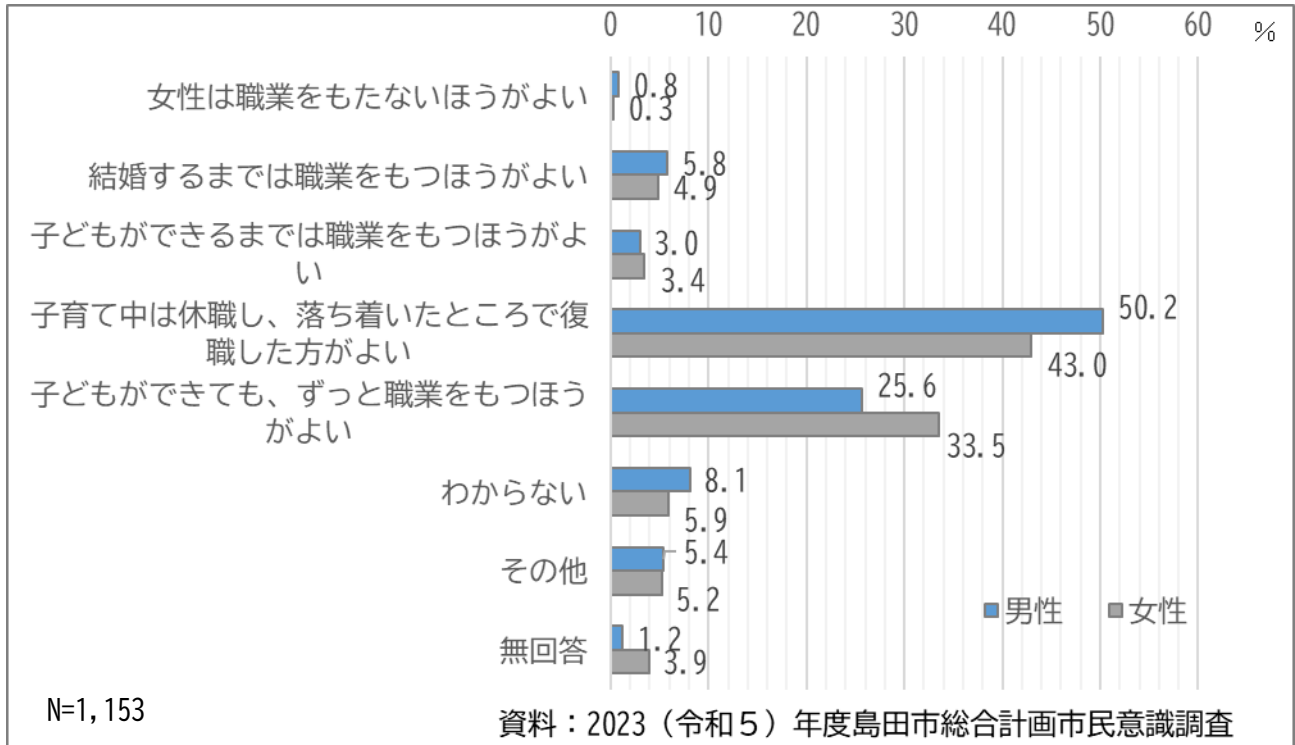
『反対』と「どちらかといえば反対」の回答を合わせた『反対』の割合は42.0%となっています。

『反対』の割合は、平成30年度32.8%に比べ、9.2ポイント増えています。

『反対』と答えた人の性別は、男性32.6%、女性49.9%で、女性の割合が17.3ポイント高くなっています。

問3 女性が職業を持つことについて

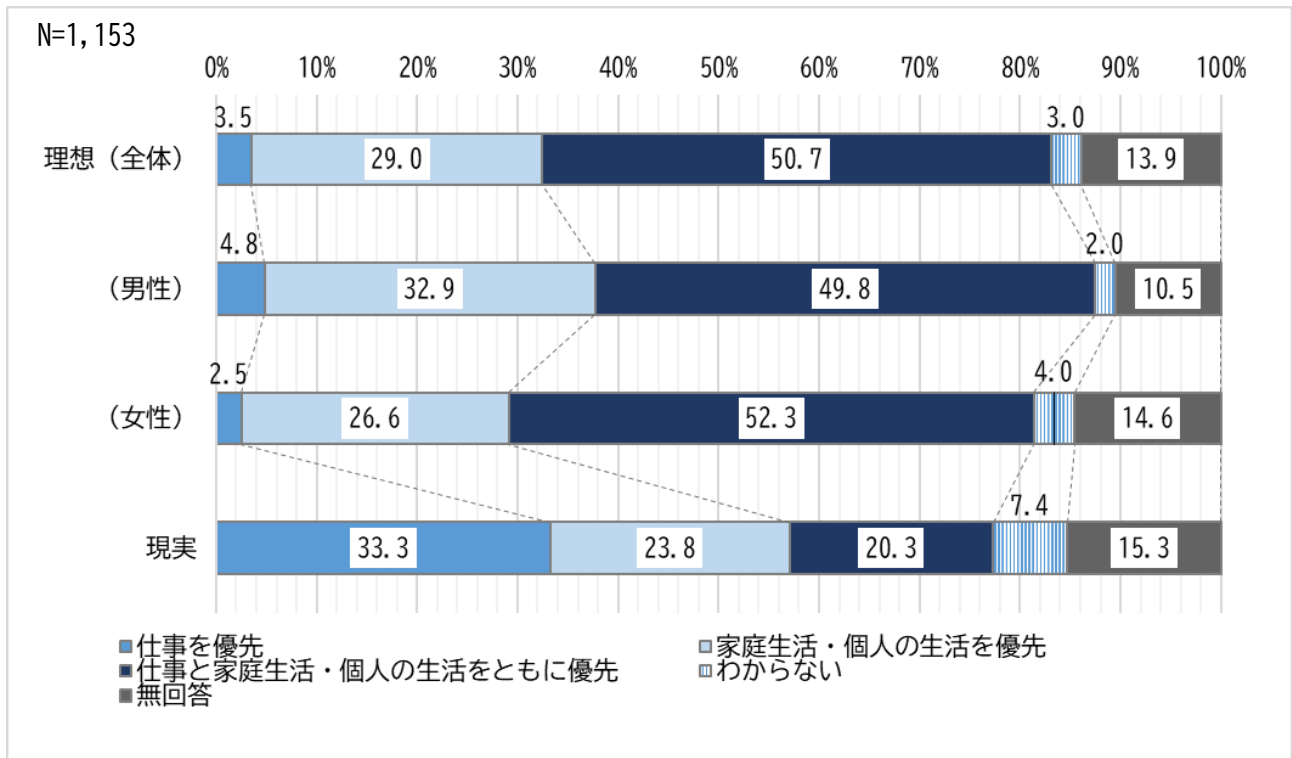
一般的に女性が職業を持つことについて、どのように考えますか。(○は1つ)



女性が職業を持つことについては、「子育て中は休職し、落ち着いたところで復職した方がよい」が最も高く男性50.2%、女性43.0%、次いで「子どもができて、ずっと職業をもつほうがよい」が男性25.6%、女性33.5となっています。

問4 生活の中での優先度について

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの理想と現実に最も近いものを選び、数字を記入してください。



生活の中での優先度として、理想とするのは「仕事と家庭生活・個人の生活をともに優先」が50.7%で最も高く、次いで「家庭生活・個人の生活を優先」が29.0%となっています。性別でもほぼ同じ割合となっています。

現実の生活では「仕事を優先」が33.3%となっています。性別では、男性39.5%、女性28.8%と男性の割合が10.7ポイント高くなっています。

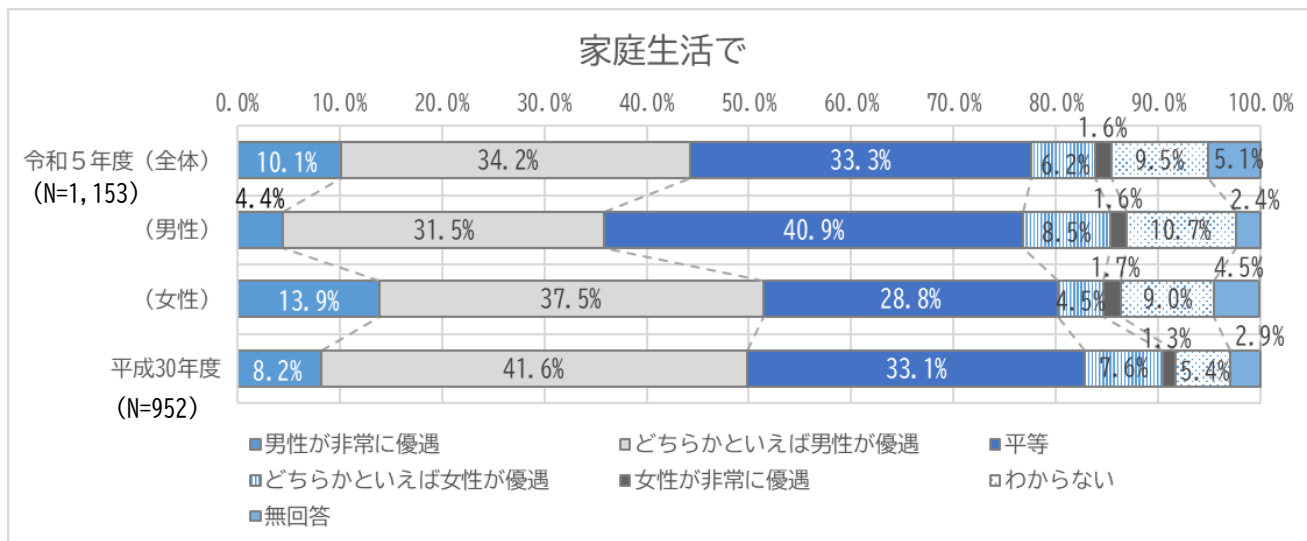
次いで「家庭生活・個人の生活を優先」が23.8%となっていますが、性別では、男性20.4%、女性27.1%と、女性の割合が6.7ポイント高くなっています。

問5 男女平等について

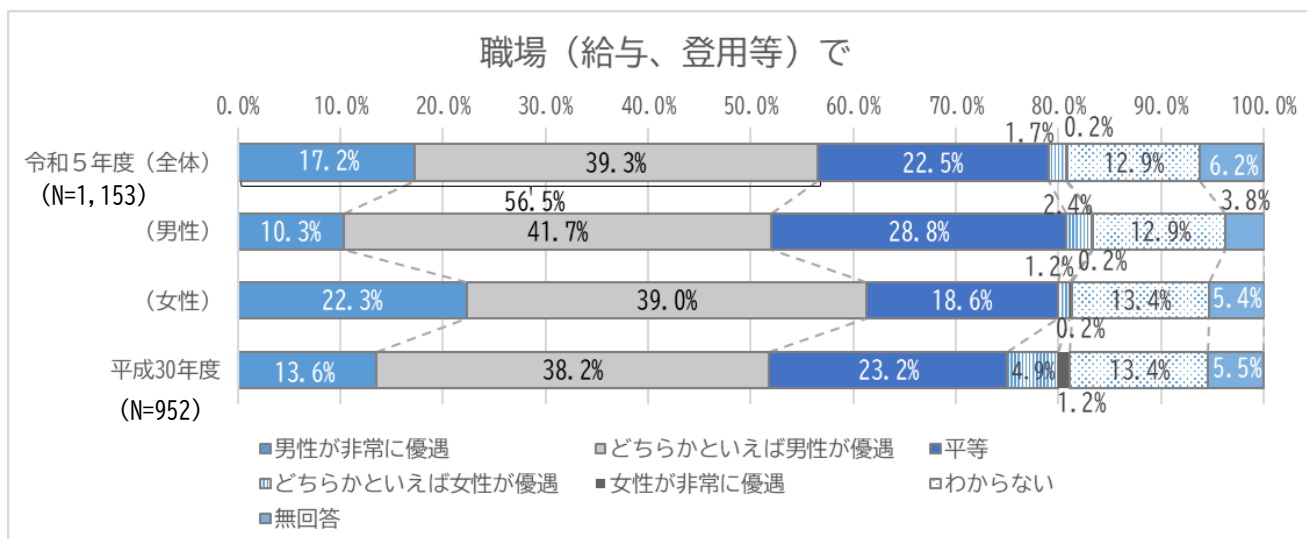
あなたは、次の分野で男女が平等であると思いますか。

(それぞれ1~6の中から1つに○)

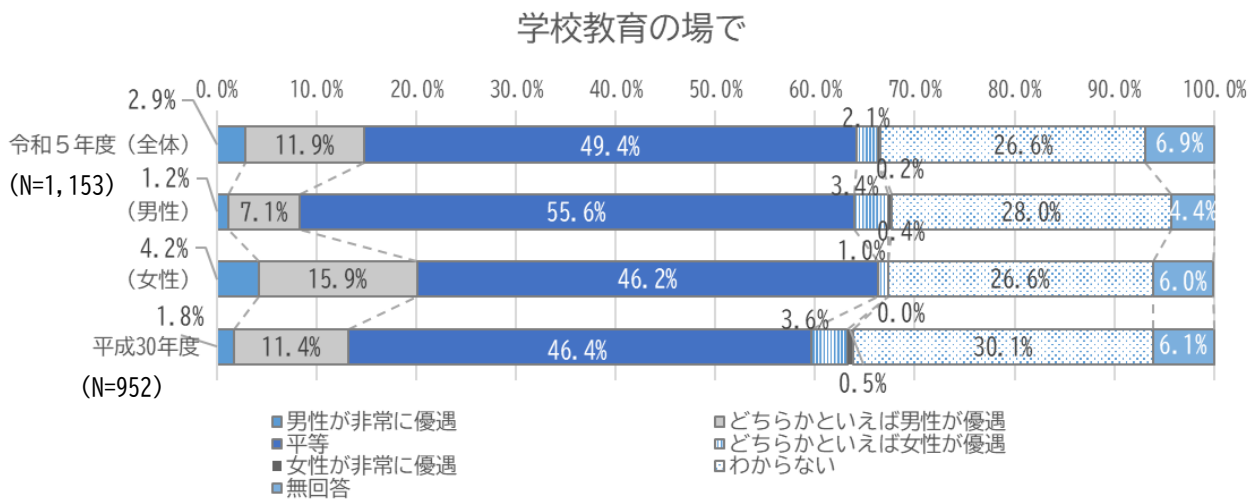
(1) 家庭生活で



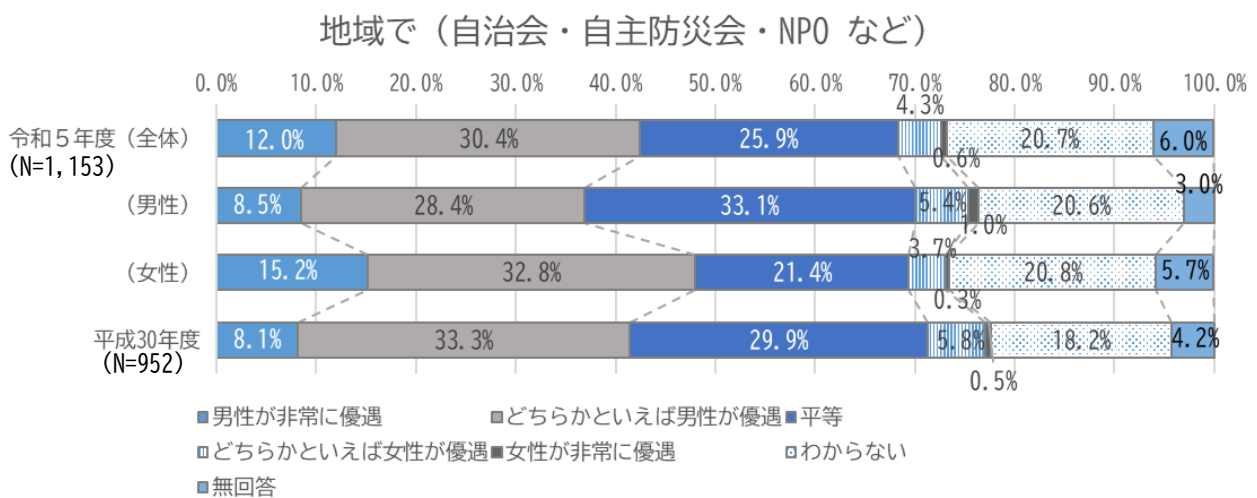
(2) 職場で



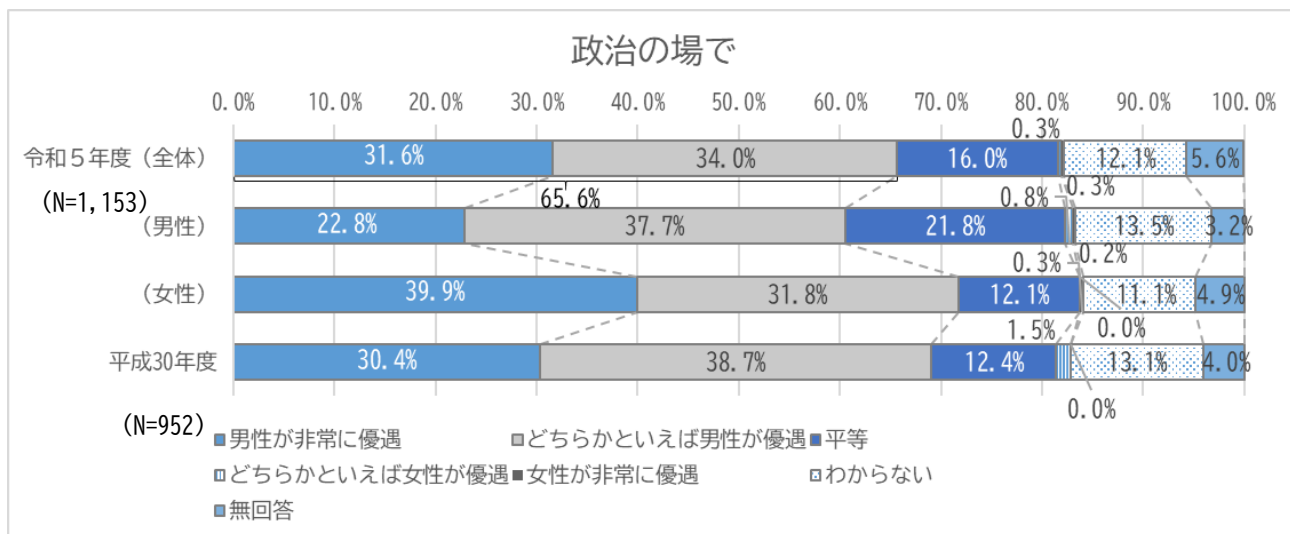
(3) 学校教育の場で



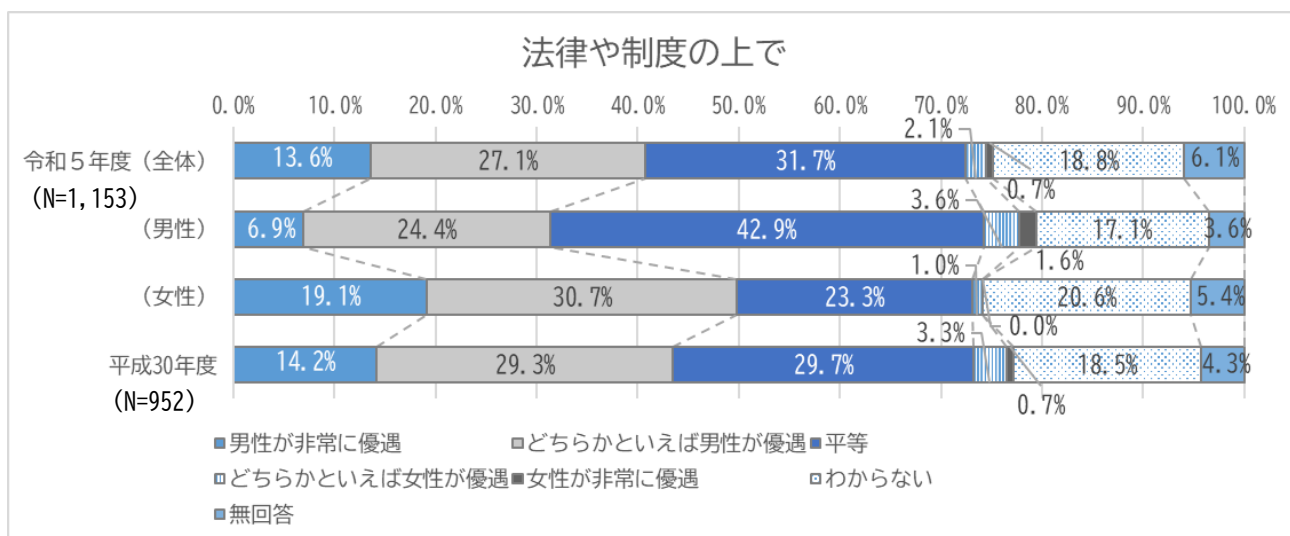
(4) 地域で (自治会・自主防災会・NPOなど)



(5) 政治の場で



(6) 法律や制度の上で

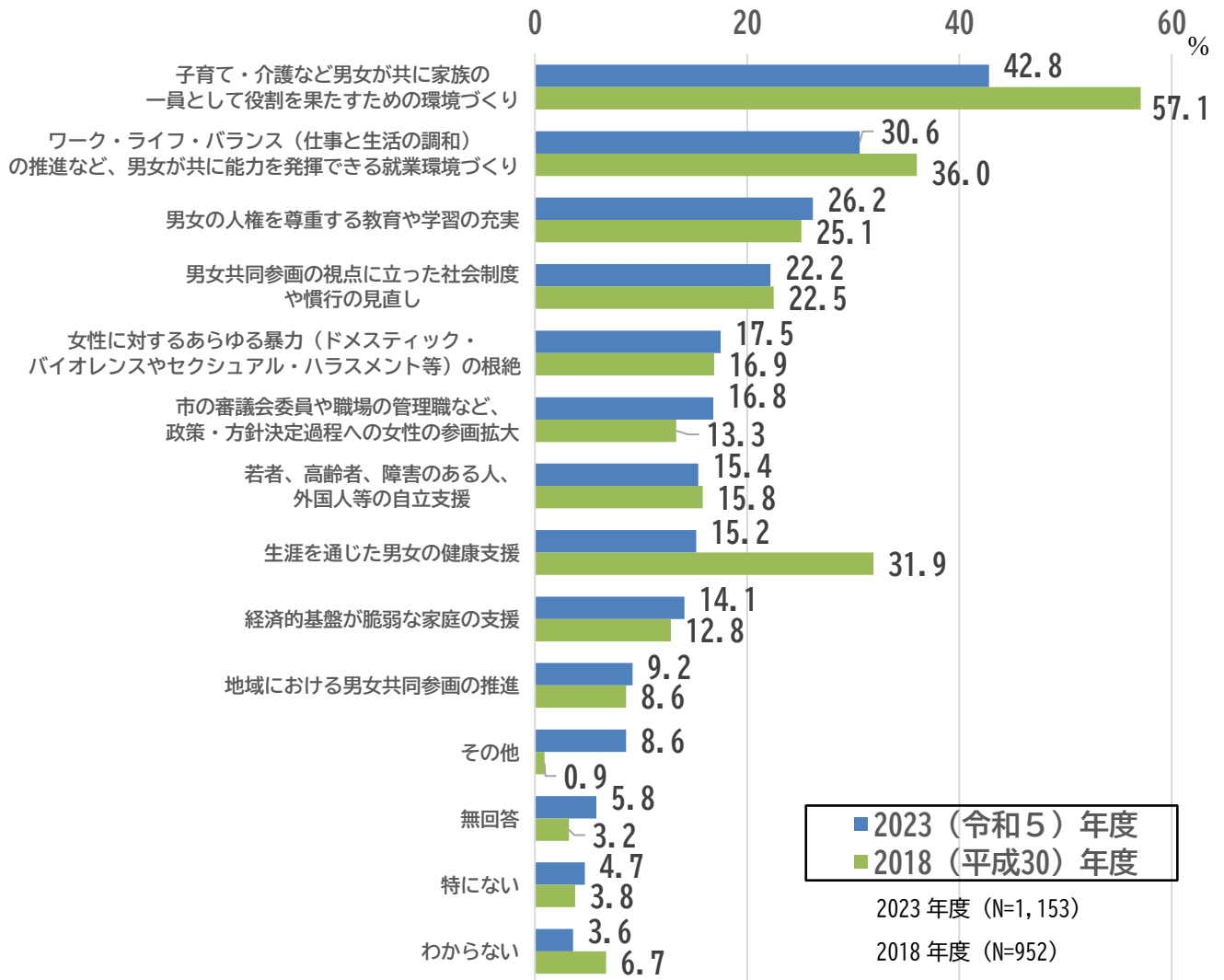


7つの分野における男女平等について、(3)学校教育の場で「平等」の回答は49.4%で、平成30年度の46.4%から3.0ポイント増えています。

そのほかの分野では、『男性が優遇されている』（「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」という回答が高くなっています。最も高いのは(5)政治の場で65.6%、次いで(2)職場（給与、登用等で）で56.5%となっています。

問6 男女共同参画を進めるため、市に希望する取り組みについて

男女共同参画を進めるため、島田市の取り組みに希望するものは何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)



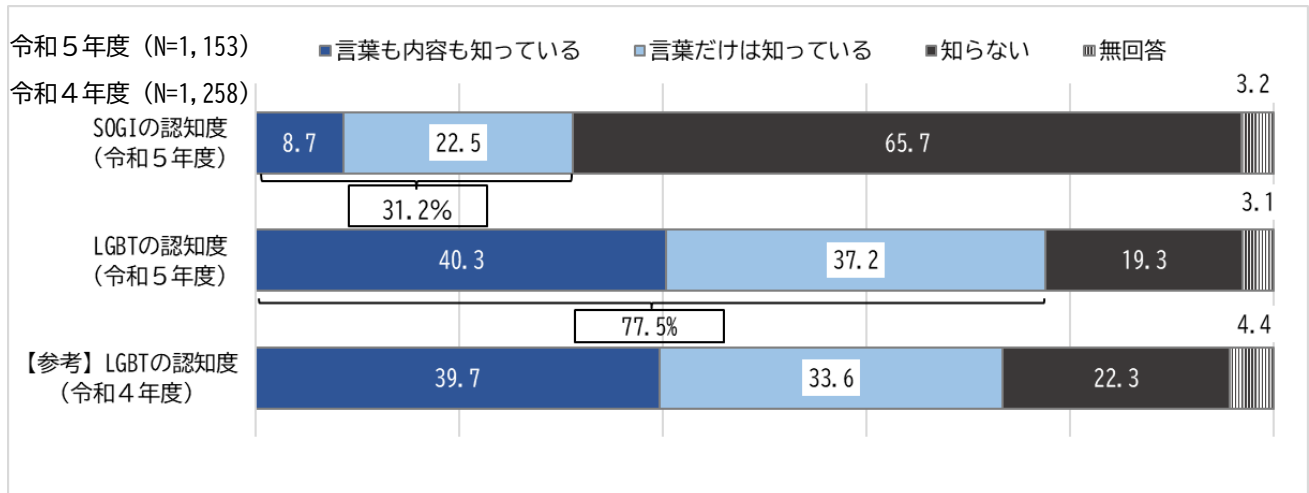
男女共同参画を進めるため、島田市の取り組みに希望するものについては、「子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」が最も高く42.8%、次いで「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進など、男女が共に能力を發揮できる就業環境づくり」が30.6%、「男女の人権を尊重する教育や学習の充実」が26.2%などとなっています。

平成30年度調査と比べて、大きな差が見られる回答としては、「子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」が、前回の57.1%に対し、今回は42.8%となり、14.3ポイント低くなっています。また、「男女の人権を尊重する教育や学習の充実」、「女性に対するあらゆる暴力(ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメント等)の根絶」「市の審議会や職場の管理職など、政策・方針決定過程への女性の参画拡大」「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」「地域における男女共同参画の推進」については、平成30年度より高くなっています。

問7・8 性的マイノリティについて

あなたは、SOGI（ソジ・性的指向と性自認）を知っていますか。

あなたは、LGBT（性的マイノリティ）を知っていますか。

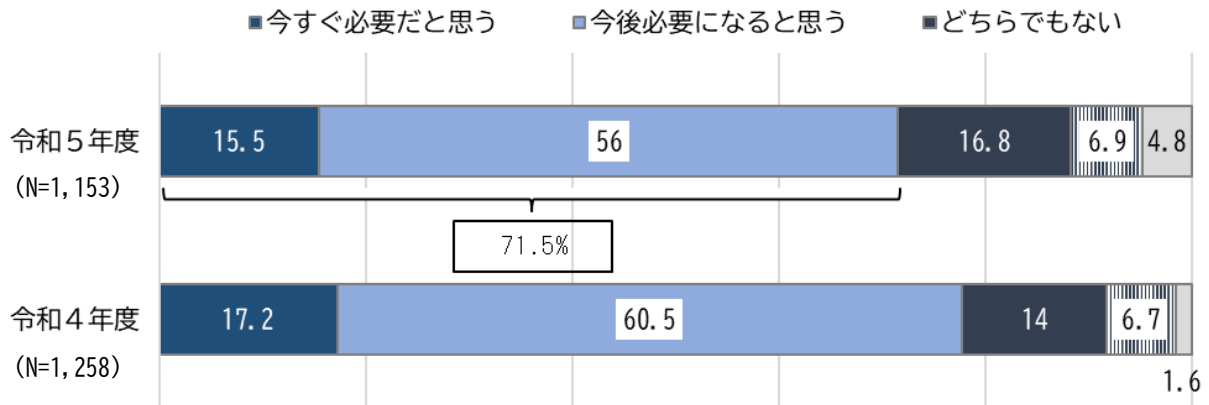


SOGI について、「知らない」が 65.7%と最も高く、次いで「言葉だけは知っている」の 22.5%、「言葉も内容も知っている」の 8.7%となっています。

LGBT について、「言葉も内容も知っている」が 40.3%と最も高く、次いで「言葉だけは知っている」の 37.2%、「知らない」の 19.3%となっています。また、経年比較をみると、「言葉も内容も知っている」「言葉だけは知っている」を合わせた『知っている』が 77.5%と、前回調査よりも 4.2 ポイント増加しています。

問9 多様な性のあり方への理解促進などの取組について

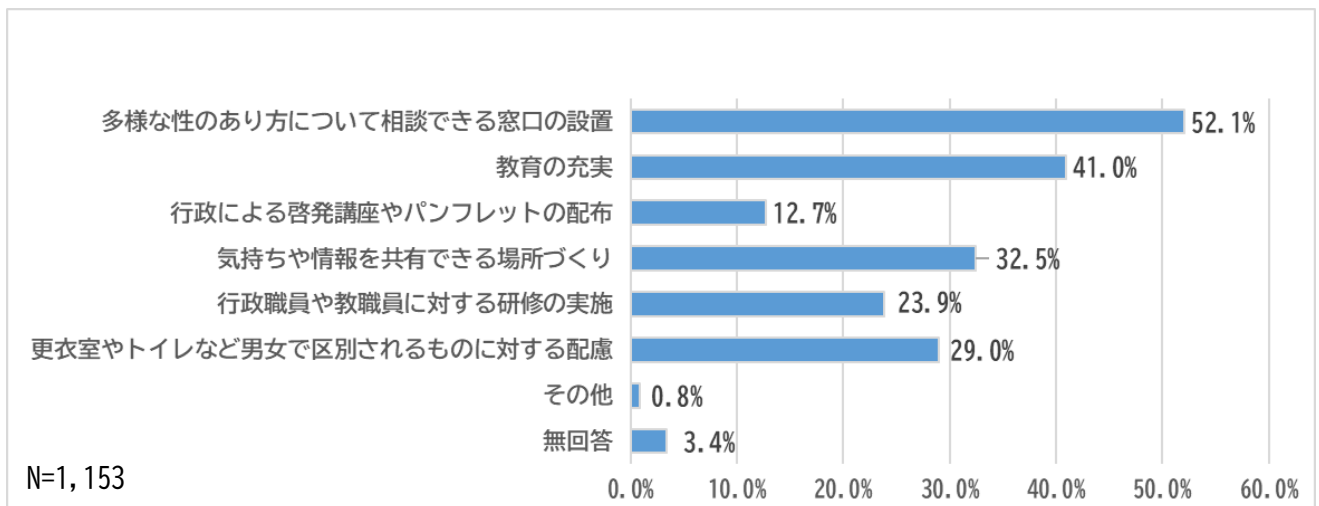
(1) 多様な性のあり方への理解促進などの取組は、島田市に必要だと思いますか。



多様な性のあり方への理解促進などの取組について、「今後必要になると思う」が56.0%と最も高く、次いで「どちらでもない」の16.8%となっています。

経年比較をみると、「今すぐ必要だと思う」と「今後必要になると思う」を合わせた『必要』は71.5%となっており、前回調査よりも6.2ポイント減少しました。

(2) どのような取り組みが島田市に必要だと思いますか。



島田市に必要だと思う取組について、「多様な性のあり方について相談できる窓口の設置」が52.1%、次いで「教育の充実」41.0%、「気持ちや情報を共有できる場所づくり」32.5%となっています。